

平成30年6月22日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16646

研究課題名(和文)ルネサンス期イタリアにおける地方画派の形成 クリヴェッリ派の体系的研究

研究課題名(英文)Local workshop in the Italian Renaissance: a study on the Crivelleschi

研究代表者

上原 真依 (UEHARA, Mai)

愛媛大学・教育学部・講師

研究者番号：90609463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、15世紀マルケ地方におけるクリヴェッリ派の広がり注目することで、都市と地方の絵画様式の対立や融合を考察しながら、イタリアルネサンス期に他都市出身の画家が、地方において工房を設立し自身の様式を定着させた様相を、明らかにするものである。アメリカ、イタリアで開催された展覧会で作品調査を行いクリヴェッリ様式の特徴を検証すると同時に、19世紀の教皇庁記録から美術品の所在を検証することで、マルケ・アブルッツォ地方にまたがるクリヴェッリ様式の広がり分布を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the proliferation of Crivelleschi in 15th century Marche Region, this project attempts to reveal how the foreign artist founded his workshop and diffused his style in local area in the Italian Renaissance while considering the conflict and fusion between central /local pictorial style. Basing on the iconographical analysis through the works at the exhibition in Italy and America, this research examines the characteristics of the Crivelleschi's style. It also sheds new light on the distribution of his style in Marche -Abruzzo Region through the documents in the Papal States.

研究分野：美術史学

キーワード：祭壇画 地方画派 カルロ・クリヴェッリ 19世紀美術市場 マルケ地方 イタリア

1. 研究開始当初の背景

ヴェネツィア出身の画家カルロ・クリヴェッリは1468年以降マルケ地方で活動し、約30点の祭壇画を制作した。これらの祭壇画の多くは、19世紀初頭まで同地方の聖堂などに保管されていたが、ナポレオン政権下の美術品接収(1811年)や、教会関係者による作品売却(1820-70年頃)のために、次々にパネルごとに解体され、時に新たな額装を施されたり別の祭壇画パネルと組み合わせられたりしつつ、世界各地に散らばることとなった。当時、ルネサンス期作品としての祭壇画に対する関心は必ずしも高くなく、その本来の姿が考究されることはなかったのである。このような祭壇画の本来の姿を復元し当初の設置聖堂を特定することは、作品研究において最も基本的な作業である。先行研究においては、現状パネルのサイズや様式の類似点に依拠して再構成を試みられてきたが、これらの祭壇画は、分解後の流通過程でパネルが改変されたために、各構成パネルのサイズが必ずしも一致しないことや、徒弟と共に分業体制で制作にあたったために、各構成パネルの様式が一致しないこともあり、様式やサイズのみを根拠とした再構成の手法には限界があった。

報告者は、マルケ地方のこうした祭壇画が19世紀まであまり動かされることなく放置され、美術品保護法令が整備されつつあった時期に集中して売却されたという事実に注目し、ローマ国立古文書館やアスコリ・ピチェーノ国立古文書館で祭壇画売却・移動時の記録や作品鑑定書など未刊行史料を複数発見した。こうして、新史料に基づき19世紀における美術品流通に関する研究を進めると同時に、現存パネルの実地調査を重ねて新知見を総合的に検証することで、東京国立西洋美術館所蔵パネルを含むカステル・トロジエ祭壇画や聖母子と聖人たち(ヴァチカン絵画館所蔵)、聖母子と聖人たち(ウォルターズ美術館所蔵)の再構成を行い、本来の設置聖堂を特定してきた。

ローマやマルケ地方での古文書館調査を進める過程で、報告者は、カルロ・クリヴェッリの祭壇画のみならず、その弟子や工房を含めた所謂クリヴェッリ派の作品の流通記録も残されていることを見出した。これらクリヴェッリ派については、1961年の展覧会「クリヴェッリとクリヴェッリ派 Crivelli e i Crivelleschi」(P. ザンペッティ監修、ヴェネツィアにて開催)以来時折取り上げられてきたが、クリヴェッリ派として列挙されるのは弟ヴィットーレ・クリヴェッリやピエトロ・アレマンノといったマルケ地方南部で活動した画家に留まっていた。しかしクリヴェッリは1490年頃にマルケ中部の都市ファブリアーノに居住しており(アンコーナ国立古文書館所蔵の公証人記録)さらに19世紀の記録に基づいた申請者の研究により、聖母子と聖人たち(ウォルターズ美術館所蔵)

など同市のための作品が複数あったことが明らかになったため、クリヴェッリの活動および影響範囲をマルケ地方南部のみに留めることはできないことが判明していた。実際、15世紀末にファブリアーノ近辺で活動したロレンツォ・ダレッサンドロ(1445頃-1501)やベルナルディーノ・ディ・マリオット(1478-1566)の作品や、マチェラータ近郊のサン・ロレンツォ礼拝堂に残された逸名画家によるフレスコ画(1510年頃)には、目頭や下臉を強調した相貌や、技巧的なポーズなど、クリヴェッリ作品に特徴的な聖人像が繰り返し採用されていた。

近年、15世紀のマルケ地方絵画に関する文献が相次いで刊行されたが、地理的な制限を設けずに、小村用に制作されたクリヴェッリ派作品まで網羅的に扱った研究は無かった。これは現存作品の少なさに加え、聖堂巡察記録のような近代以前の記録が少ないために、作品分布の全貌が掴めていなかったからに他ならない。

報告者は、これらの困難を打破するものとして、これまで看過されてきた19世紀の教皇領下での公的記録および各町の貴族・識者による記録(ファブリアーノの未刊行記録ラメリ家文書など)を活用する。特に1851年に教皇管轄庁が教皇領内で行った、美術品の一斉調査に関する報告書は、各町村の作品を列挙しており、作品分布および保管状況を知るうえで非常に重要な史料と言えるが、イタリア統一の混乱期だったことも手伝い、マルケ州内の国立古文書館5館に未整理のまま草稿が保管されている。報告者はこれらの史料を整理、照合し併せて現存作品の実地調査を行うことで、作品の原状再構成を目指すとともに、クリヴェッリとクリヴェッリ派作品の分布を検討することで、クリヴェッリ派の形成と伝播を解明する。

2. 研究の目的

ルネサンス期のイタリア地方部において、他都市出身の画家の活動が受容され、複数の町村で工房を構えるまでになった現象を、史料および作品実地調査の最新の成果に基づいて解明する。具体的には、これまで一地方の特異な画家として扱われてきたヴェネツィア出身の画家カルロ・クリヴェッリと、画家の様式を受け継いだ複数のクリヴェッリ派の画家に注目し、マルケ地方にかつて点在していた作品を、19世紀教皇領下の公的史料や各地のコレクターの記録を紐解いて再構成するとともに、現存作品の実地調査を並行して行うことで、同地方におけるクリヴェッリ様式の盛衰を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、(1)関連文書史料の収集、分析に基づいて、クリヴェッリおよびクリヴェ

ッリ派の作品を網羅的、体系的にまとめること、(2)(1)の記録に基づきながら、現存作品の実地調査を行うこと、(3)これらの基礎データをもとにマルケ地方におけるクリヴェッリとクリヴェッリ派作品の全体像を浮かび上げさせ、クリヴェッリ派がどのように成立し広がったのかを考究する方法をとる。

当初の計画では、効率よく現地調査を進めるため平成 27 年度にマルケ地方での史料調査(1)を中心に、アメリカ初のクリヴェッリ展での作品調査を、平成 28-29 年度に資料調査を補完(1)し、マルケ・ウンブリア地方での実地作品調査(2)と画派形成の分析をすすめる(3)ことを予定していた。しかしながら、現地入り直前の平成 28 年 8 月 24 日に発生したイタリア中部大地震によってマルケ地方内での資料・作品調査が不可能になり、大幅な計画変更を余儀なくされた。そこで平成 28 年度にはローマでの追加資料調査を行うと同時に、都市部に保管されているクリヴェッリ派の作品調査を、平成 29 年度には当初よりも調査対象をマルケ地方北部へと拡大してローマ及びマルケ地方北部で史料追加調査を行うと同時に、イタリア各地で緊急開催された地震被害報告展に出品されたクリヴェッリ派の作品を実見・調査することとした。

4. 研究成果

本研究は、カルロ・クリヴェッリの活動とクリヴェッリ派作品の広がりを中心に、ルネサンス期のイタリア地方部において他都市出身の画家の活動が受容され、複数の町村で工房を構えた現象を、史料および作品実地調査の最新の成果に基づいて解明するものである。

平成 27 年度は、これまでのクリヴェッリの祭壇画作品についての記録収集に加えて、クリヴェッリ派作品まで対象を拡大し調査を行

ってきた。具体的には、1) 関連文書史料の収集と分析、史料で言及された作品のデータベース化 2) 今もマルケ地方に残るクリヴェッリ派作品の現地調査 3) アメリカで開催されたクリヴェッリ展でのパネル調査を行った。後述するように、イタリアの文書館で

の史料収集については閲覧冊数の突然の大幅縮小によって平成 27 年度予定分の達成が難しかったが、代わりに平成 28 年度以降予定していたマルケ地方でのクリヴェッリ派作品調査を一部前倒しし、またボストンで開催されたカルロ・クリヴェッリ展覧会で祭壇画パネルを実見・精査した。特にマルケ地方の作品調査では通常実見の難しい地方画家ルーカ・ディ・パオロの祭壇画作品を精査することができ、クリヴェッリ様式の広がりを

考察するうえで重要な資料を得ることができた。これまで一地方の特異な画家として扱われてきたヴェネツィア出身の画家カルロ・クリヴェッリと、画家の様式を受け継いだマルケ地方のクリヴェッリ派の画家に注目することは、同地方に置けるクリヴェッリ派の盛衰を紐解く助けとなった。

平成 28 年度は、前年度までの資料調査に基づき、マチェラータ市立図書館所蔵の A・リッチの覚書を調査すると同時に、マルケだけでなくウンブリア、アブルツォ州にまでクリヴェッリ派の痕跡が見られるとの仮説を立て、今も現地に残るクリヴェッリ派関連作品の実地調査を行う予定であった。しかし、8 月 24 日のイタリア中部大地震により当初の資料・作品調査が不可能となったため、平成 29 年度に予定していた、同時期の他の地方画派との比較・検証に関連した調査を盛り込むことを急遽決定するとともに、研究方針の立て直しのためローマでの追加資料調査を行った。同時に、ヴェネツィア、チーニ宮所蔵のカルロ・クリヴェッリの初期作品及びフランケッティ美術館所蔵のクリヴェッリ派小品を精査し、マルケ地方で画派を確立する前のヴェネツィアでの活動について考察した。また、ロンドン、ナショナル・ギャラリーで開催されたシンポジウム「Negotiating Art」に参加し 19 世紀美術市場に関する最新

の研究成果を収集しながら意見交換を行うとともに、前年度までの資料および作品調査の成果を『西洋美術研究』および『民族芸術』に投稿した。

平成 29 年度は、前年度までの資料・作品調査に基づき、カルロ・クリヴェッリの活動とクリヴェッリ派の伝播、影響の広がりを纏めることと前年度の大地震により、調査対象を含む多くの聖堂の全半壊、同地域への立ち入りが依然制限されており、作品を保管する博物館の閉鎖、文書館の休館が続いていた。そこで、クリヴェッリ派の広がりを想定できる調査対象地域を地震被害の少ないマルケ地方北部に拡大し、ローマ国立古文書館で同地域に関する史料調査を行うと同時に、地震により調査が頓挫していたマルケ地方中南部に関しても作品の現状や古文書館の復旧状況についてローマのヘルツィアーナ図書館を拠点に情報収集をすすめ、実見の機会を得られるものから調査に当たることとした。資料調査については、ローマ国立古文書館などを中心に、これまで調査対象としていなかったペーザロ地区での教皇庁への美術品に関する報告書を調査したが、確認できた祭壇画関連記録は僅かであった。一方、作品調査に関しては、ちょうど地震からの復興事業の一つとして、イタリア各地の美術館や聖堂にて、マルケ地方の作品(通常アクセス困難な作品を含む)が展示される地震被害報告展が開催されたため、それらの展覧会を調査することが作品実見・調査の貴重な機会となった。

調査計画の変更から、史資料および作品調査の整理・分析が当初の計画よりも遅れているものの、クリヴェッリ派の分布状況を知るための重要な手がかりとなる、1851年の教皇管轄庁による美術品一斉調査の報告書は、対象地域のほぼ8割程度を収集済である。また報告書に記載のあるようなクリヴェッリ派の作品の実地調査も、地震被害報告展において行うことができたため、アスコリ・ピチエーノ南部およびファブリアーノ周辺の小村部におけるクリヴェッリ様式の流行について分析をすすめている。両地域におけるクリヴェッリ工房の役割については、平成30年度中にその成果を学会誌に発表する予定である。

(1)研究代表者
上原 真依 (UEHARA MAI)
愛媛大学・教育学部・講師
研究者番号：90609463

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

上原真依「19世紀イタリア美術市場におけるルネサンス期祭壇画 ミラノの修復士にしてディーラー、アントーニオ・フィダンツァに関する未刊行文書を中心に」査読有、三元社、『西洋美術研究』No.19 特集：美術市場と画商、113-126頁、2016年9月30日

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織